

農作物技術情報 第3号 水稻

発行日 令和3年 5月 27日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 好天時は、浅水管理で水温・地温を高め、初期生育を促しましょう。
- ◆ 目標とする莖数を確保したら、すみやかに中干しを実施しましょう。
- ◆ 除草剤は、イネ・ノビエの葉齢を確認し、適期を逃さず処理しましょう。
- ◆ 取置苗はいもち病の伝染源になるので、直ちに処分しましょう。
- ◆ 斑点米カメムシ類のふ化盛期に合わせ、地域一斉の草刈を実施しましょう。

1 生育概況

- (1) 県内の田植え盛期（50%終了）は、5月17日頃で平年並みとなりました（表1）。
- (2) 田植え時の苗の草丈は、北上川下流及び東部（播種4/15頃、移植5/13頃）では平年に比べ短く、北上川上流と北部（播種4/16頃、移植5/21頃）は育苗期間後半の高温の影響で平年より長くなりました。乾物重は北部を除いて平年より小さく、やや充実度の低い苗もみられましたが（表2）、田植え盛期の5月中旬以降気温が高く推移したことから、活着は平年並みに良好となっています。

表1 県内農業地帯別田植状況（各農業改良普及センター調べ：5/25現在速報）

市町村名	本年			平年			平年差			前年		
	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期
北上川上流	5/15	5/20		5/16	5/21	5/26	-1	-1		5/15	5/21	5/26
北上川下流	5/9	5/15	(5/22)	5/10	5/15	5/22	-1	0	(0)	5/9	5/15	5/23
東部	5/10	5/15	(5/24)	5/12	5/16	5/23	-2	-1	(+1)	5/11	5/16	5/25
北部	5/19	(5/25)		5/19	5/24	5/28	0	(+1)		5/19	5/25	5/30
県全体	5/11	5/17		5/12	5/17	5/24	-1	0		5/11	5/17	5/24

注) 1 平年値は10か年(平成23年～令和2年)の平均値。 始期：10%終了、盛期：50%終了

2 括弧内の数値は、現時点において未確定市町村が含まれるため推定値。

表2 苗の生育状況（農業改良普及センター生育診断予察圃）

地帯名	草丈			葉齢			第1葉鞘長			100個体乾物重		
	本年 (cm)	平年 (cm)	平年差 (cm)	本年 (葉)	平年 (葉)	平年差 (葉)	本年 (cm)	平年 (cm)	平年差 (cm)	本年 (g/cm)	平年 (g/cm)	平年比 (%)
北上川上流	16.8	15.7	1.1	3.0	2.9	0.1	4.1	3.8	0.2	1.95	2.14	91
北上川下流	13.6	15.0	-1.4	2.6	2.8	-0.2	3.8	3.9	-0.1	1.64	1.92	85
東部	13.8	15.4	-1.6	2.7	2.7	0.0	3.6	4.0	-0.4	1.92	2.06	93
北部	18.2	16.1	2.1	3.7	3.2	0.5	3.4	3.3	0.1	2.92	2.63	111
県全体	14.7	15.3	-0.6	2.8	2.8	0.0	3.8	3.8	0.0	1.80	2.00	90
育苗目標	稚苗12～14cm			2.0～2.5			3.5～4cm			1.0～1.5g/cm		
	中苗13～15cm			3.5前後			2.5～3cm			2.0～2.5g/cm		

注) 1 本年値は各地帯別の全データ平均、平年値及び平年差（比）があるデータのみ平均値。

2 平年値は原則として5か年(平成28年～令和2年)の平均値。

2 水管理（分けつの促進と中干しの実施）

（1）分けつの促進

- ア 晴れ～曇天の日、気温の高い日は田面が露出しない程度の浅水（3～5 cm）とし、分けつの発生を促します（図1上）。
- イ 最高気温が概ね15℃以下の低温時には、葉先が出る程度の深水とします（図1下）。特に田植え後間もないところでは、活着や初期生育を促すようきめ細かな水管理をしてください。
- ウ 冷水のかかる水田は、アゼ波などを利用して積極的に水温の上昇をはかります（図2）。
- エ 以下のような場合は、稲を健全に保つため、水の入れ替えを行ってください。
 - ・ 藻類が多発する水田
 - ・ 水持ちが良すぎる場合（1回の入水で7日以上持つ水田）
 - ・ 生わら施用田など、早期に還元化が進んでガスが発生する水田（表3）

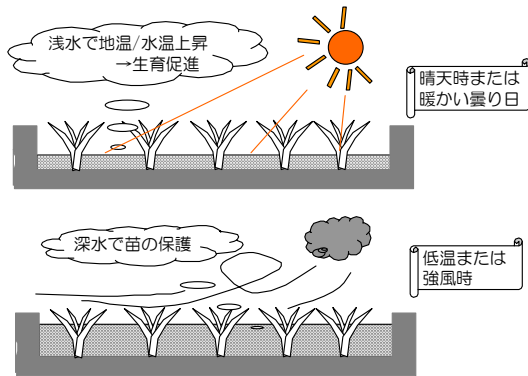


図1 初期生育を促す水管理

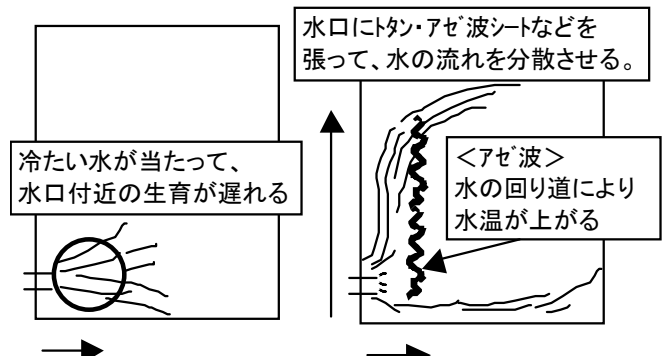


図2 冷水がかりでの水の入れ方の工夫

表3 異常還元によるガス湧きの程度と対策（久保田1982ほか）

特徴	生育への影響	対策	
		分けつ初期	分けつ盛期
足を踏み入れても気泡が発生しない	なし	—	—
足を踏み込んだときに、多量の気泡が発生する	根の活力低下	水の入れ替え	水の入れ替え
晴天時自然に気泡が発生し、パチパチ音がする。歩くと著しい量の気泡が発生する（水田から離れてもドブ臭がする）	根の伸長阻害 地上部黄化	夜間落水	間断灌溉 夜間落水

（2）中干しの実施

- ア 目標とする茎数が確保されたら中干しを行います。中干しは土壌の還元化を和らげ、根の伸長促進と健全化をはかり、無効分けつの発生を抑制します。
- イ 県内の主要うるち品種（ひとめぼれ、あきたこまち、いわてっこ等）の目標茎数は、6月下旬に400～500本/㎡程度（坪60株の場合、株あたり22～28本）を目安とします。
- ウ 中干し期間は7～10日程度とし、田面に小さな亀裂が生じ田面を軽く踏んで足跡がつく程度を目安とします。
- エ 灌水や排水を容易に行うため、中干しとあわせて作溝を行うとより効果的です。
- オ 中干し終了直後は間断灌溉とし、その後常時湛水とします。以後は低温でない限り、幼穂形成期までは間断灌溉とします。

3 効果的な除草剤の使用

除草剤を散布する場合は、効果を十分に発揮させるため、下記の点に注意します。

（1）散布時期

雑草の種類や葉齢を良く確認して、散布適期内の早い時期に散布します。

なお、除草剤ラベルに記載された散布晩限のノビエ葉齢（例：～ノビエ2.5葉まで）は、平均葉齢でなく「最大葉齢」ですので、適期を逸しないように散布してください（図3、写真1）。

（2）散布後の水管理

十分な湛水深を確保してから除草剤を処理します。散布後3～4日間は水を動かさず、7日間は落水・かけ流しをしない管理としてください（この間、田面を露出させないこと）。

（3）使用する農薬のラベルを必ず確認して、使用基準を遵守してください。

■ノビエ

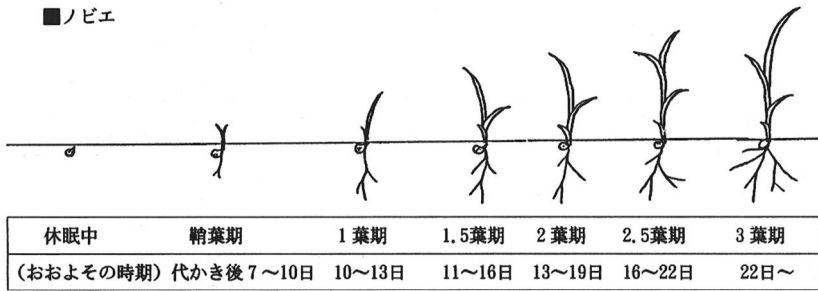


図3 ノビエ葉齢の進展



写真1 ノビエ2葉期頃の個体

4 病害虫防除対策

(1) 葉いもち：補植用取置苗の早期処分対策

ア 水田内や畦畔際に放置された取置苗は、いもち病の伝染源になる恐れがありますので、直ちに処分してください。取置苗をよく観察し、葉いもち病の発生を確認したときは、水田内の葉いもち病発生状況を観察します。

イ 葉いもち予防の水面施用粒剤施用時期は6月20日~25日が適期です（移植時にいもち病予防箱粒剤を施用した場合は必要ありません）。例年、葉いもちが早期に発生する地域ではこれより7日程度早めに施用してください。

ウ 葉いもち予防水面施用粒剤を施用する前や箱施用剤を使用した場合でも、圃場をよく観察して葉いもちの発生が見られた場合には、直ちに茎葉散布を行います。



写真2 取置苗での葉いもち発生

(2) 斑点米カメムシ：発生源対策

ア 斑点米発生の原因となるアカスジカスミカメは、イタリアンライグラス等のイネ科牧草や雑草の穂などで繁殖します（写真3、4）。

イ アカスジカスミカメは卵で越冬しますが、越冬卵のふ化（卵がかえること）盛期の前後5日間に畦畔等の草刈りを行うと、越冬世代幼虫の密度低減に効果的です。

ウ アカスジカスミカメ越冬世代幼虫のふ化盛期は、ほぼ平年並の予測ですが、越冬世代の発生量は多くなることが予想されていますので、表4の予測日を参考に地域全体で草刈りを行い、アカスジカスミカメの密度低減に努めてください。



写真3 畦畔に群生するイタリアンライグラス
(斑点米カメムシの増殖原となる)

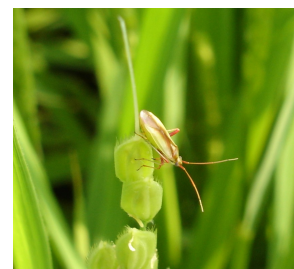


写真4 アカスジカスミカメ成虫

表4 アカスジカスミカメ越冬世代幼虫のふ化盛期(予測)

(令和3年度農作物病害虫発生予察情報 発生予報第3号より)

年次	一関	江刺	北上	大船渡	盛岡	二戸	軽米	宮古	松尾	遠野	湯田	久慈
令和3年	5/25	5/25	5/27	5/27	5/29	6/2	6/2	6/3	6/4	6/5	6/10	6/7
平年	5/26	5/26	5/27	5/31	5/30	6/3	6/4	6/4	6/2	6/5	6/12	6/10
(参考) 5/25以降 1℃高く推移した場合	5/25	5/25	5/26	5/27	5/29	5/31	5/31	6/1	6/2	6/3	6/7	6/4

5 直播栽培（鉄コーティング種子による湛水表面播種栽培）の本田管理

（1）本年の出芽状況と本田管理のポイント

- ア 本年は、播種後の気温が平年より低く経過しており、苗立ちはやや遅れています。
- イ 苗立ち後、一発処理除草剤を散布する場合は、稲とノビエの葉齢に注意し、適期を逸しないように散布してください（農作物技術情報第1号参照）。
- ウ 本田管理は、基本的には移植栽培に準じて行います。なお、出穂は移植栽培に比べ7～10日程度遅くなることから、防除や追肥の計画は熟期差を考慮して見通しをたててください。

（2）中干し

- ア 県内の主要うるち品種（ひとめぼれ、あきたこまち等）の目標茎数は、6月下旬に400～450本/㎡程度（坪60株の場合、株あたり22～25本）が目安です。
- イ 中干しは登熟期の倒伏を抑制する効果もあるので確実に行います。

（3）病虫害防除

ア 葉いもち病防除

（ア）殺菌剤の種子処理、または播種時土中施用・側条施用が基本です。

（イ）（ア）の防除が未実施の場合は、いもち発生を見逃さないよう圃場をよく観察し、発生が確認され次第、茎葉散布での防除を行います。

イ 初期害虫防除（イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ）

（ア）殺虫剤の種子処理または播種時土中施用・側条施用が基本です。

（イ）（ア）の防除が未実施の場合は、害虫の発生状況をよく観察し、発生が確認され次第、殺虫剤の水面施用による防除を行います。

ウ 穂いもち病防除

出穂直前と穂揃い期の2回の茎葉散布を基本とします。

エ 散布する薬剤の選択

それぞれの病虫害に適用登録のある薬剤から選択します。

一部飼料用米や稲発酵粗飼料（稲WCS）では農薬の使用に制限がありますので、不明な点は最寄りの農業改良普及センター等に御相談ください。



写真5 イネミズゾウムシ成虫
（苗立ち前後の幼個体への加害）

春の農作業安全月間 [4月15日
～6月15日]
「全集中 ゆとりの呼吸で 安全作業」

山火事防止運動月間 [3月1日
～5月31日]
「あなたです 森を火事から 守るのは」

岩手県では例年3～5月に、野焼きが原因と思われる林野火災が多発しております。やむを得ず野焼きを行う場合は火の取り扱いに十分注意しましょう。

次号は6月24日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。